

2025

同友しずおか 9

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」

VOL.562

深 沢 米 店



私の逸品

(有)深沢米店

静岡県産精米「にこまる」



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2

よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

●社長はいつも孤独

●経営の成功体験しか聞けない

●目の前の仕事に追われる毎日

●指示待ち社員ばかり

●経営の悩みを相談する仲間ができた

●失敗談から勇気とヒントをもらえた

●将来の会社のビジョンができた

●自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130



◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

名義変更による新名義人（敬称略）会員数 1086名

氏名	社名・事業	所属支部
なが い ぐう た 永井 豪太	(株)伸和セキュリティ 交通誘導、人材派遣、看護・介護タクシー	浜 松

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



静岡県産精米「にこまる」

(有)深沢米店 (静岡支部)

代表取締役 深澤 圭吾氏



にこまるラベル



無洗米用の精米機

人との関係を大切にする経営
「食を通して笑顔のバトンを繋ぐ」
「食は笑顔」、その思いを仕事を通じて実現しようとする深澤氏の経営には「人付き合いを大事にする姿勢」が息づいています。

祖父の代に配給制度下で創業、父の代には工場を移転し規模を拡大。現在、10名規模にまで組織を整えた深澤氏は、「創業世代が抜け、親族だけで回す時代がいつか終われば、多くの人が働ける環境のために組織のルールや経営指針が必要だ」と語ります。自社の環境を整えながら、良いお米があれば新潟や宮城などの県外の産地にも自ら足を運

地域の農家と共に取り組む 静岡県産精米「にこまる」

「にこまる」を支えるのは深澤氏と農家が共に行う循環型農業。自社の精米ぬかを有機肥料として再利用し、持続可能な米作りを実践。現在6組の農家を取り組みに参加し、20年以上にわたリエコファーマー認定を継続してきました。
大粒でしっかりとした甘みと食感が特徴の、まさに食べる人を笑顔にする深沢米店の自社



微笑みながら機械を見つめる深澤氏

ブランド米「にこまる」。美味しさの追求だけでなく、人のつながりを大事にする深澤氏らしさが息づく生産体制を持つ「顔の見える米作り」により生まれた逸品です。
深澤氏は農家の方々と、単なる仕入れと販売にとどまらない、安心とおいしさを追求しながら地域と共に歩む姿勢を貫いています。

先を見据えた経営で米の 安定供給を目指す

経営の基盤を支えるのが店舗の裏にある大きな精米工場です。フル稼働すれば40トンの処理能力を誇ります。深澤氏が最も重視するのは「止めないこと」。日々の清掃やメンテナンスを欠かさない丁寧な姿勢には「米は生き物」という深澤氏の思いが

表れています。「誰か機械に詳しい方がいたら教えて」そう取材の中で微笑みながら機械を見つめる深澤氏の目は真剣そのものでした。相場は株価のように揺れ動き、仕入れのタイミング一つで収支が変わる、だからこそ設備も経営判断も「一手先を読む力」が欠かせません。昨今の厳しい外部環境の中でも道を切り開く深沢米店の情熱を取材を通じ垣間見ました。

(有)深沢米店

〒424-0204 静岡市清水区興津中町514-8

TEL: 054-369-0471

創立 1951年6月

社員数 10名 (パート・アルバイト含む)

入会年月 2016年7月

事業内容 米及び雑穀の精米・販売

取材・記事：渡邊 且真氏
(株)協和・静岡支部

取材：望月 康仁氏
(株)エムテック・静岡支部
藤本 浩氏
フリントバリュー(株)・静岡支部

会員訪問記

技術の進歩とともに新しい考え方の、
工務店にしかできない家づくり

(有)吉川建設

取締役専務 吉川 泰輔氏（三島支部）



手がけたシンプルノートの家

地域とともに歩む家づくり

三島市にある(有)吉川建設は、1989年創業の地域密着型工務店です。新築住宅から増築、リフォーム、耐震補強まで幅広く対応しています。「無駄をなくす」という考え方で建築コストを抑えながらもシンプルで高性能な住まいを提案するデザイン住宅「SIMPLENOTE」を展開。また、建物全体を高性能断熱材で包み込んだ機密性の高いスーパーウォールの家づくりにも力を入れています。無駄を省いたデザインとスーパーウォール工法を取り入れた高気密、高断熱で快適な暮らしやすさを両立し、安心できる施工と丁寧な対応で信頼を築いている地域に根づいた工務店です。

技術で守る伝統と暮らし

同社の強みは、確かな大工技術と丁寧な施工にあります。木造建築の技術を継承しながら、現代的な性能やデザインを融合しています。最近では、三島市にある築100年を超える聖徳太子堂の屋根改修工事を担当しました。傷んだ瓦屋根を撤去し、下地を補強、新しい屋根材へ葺き替えることで、伝統的な意匠を守りながら耐久性、防水性を向上させました。歴史ある建物を未来へつなぐこの仕事は、

地域に根ざした工務店ならではの誇りある取り組みと技術であるといえます。

建てた時より、5年後、10年後にも喜ばれる家づくり

同社では現場のスタッフが直接お客様の声を伺い、40年以上の経験と確かな技術で家づくりに反映しています。だからこそ「こうすればできる」という具体的な提案が常に可能です。さらに、一貫して見守ってきた家だからこそ、数年前の状態まで見通すことができます。メンテナンスはもちろん、「こんなことをしたい」という相談にも応えられるのは、地元根ざす建設会社ならではの強みです。吉川氏と社員一同が願うのは、家



聖徳太子堂修繕後



聖徳太子堂修繕前

(有)吉川建設

〒411-0857 三島市芝本町4-24

TEL: 055-975-5800

URL: <https://mishima-reform.com>

創業 1989年

社員数 4人

入会年月 2024年10月

事業内容 新築、増築、リフォーム、メンテナンス、診断など

取材・原稿…細井 崇史氏

(花屋Mariey・三島支部)

が完成して、さらに5年後、10年後にも「吉川建設で家を建てて良かった」と言っていただけのことです。「それが私たち職人の誇りであり使命です」と力強く語る吉川氏でした。



取材者の細井氏（左）と吉川氏（右）

会員訪問記

老舗として最高のとんかつを
提供し続ける努力

とんかつこがね

代表 森川 剛存氏（沼津支部）



店舗前にて森川氏（中央）と取材陣

現在の経営状況

展開し、最高時には1店舗1日で500万円の売上を記録したこともありましたが、しかし、東名インター近くの立地で営業していた主力店舗については、道路環境の大幅な変化により交通量が激減し、メイン道路から裏道的な存在となったことで売上が大きく下落、グループ全体の業績が悪化しました。そのタイミングで実質の事業承継の機会が訪れ、平成22年（13年前）に森川氏が「とんかつこがね」を買い取ることとなりました。創業から40年の歴史を持つ同店は固定客に支えられており、森川氏は「やり方によっては利益を出していける」と確信し、経営を引き継ぎました。

承継当初は大赤字からのスタートで、1年半近く不安定な経営が続きましたが、徐々に黒字化を実現。コロナ禍では営業制限がある中、テイクアウト需要の急増により売上を維持することができました。しかし、ここ数年は原材料価格の大幅な上昇に直面しています。特に米価は2倍、豚肉やエビなども1.5倍近く値上がりし、3年間で2回の価格改定を余儀なくされました。親族所有の物件で家賃を抑えられているため、可能な限り顧客還元価格を維持しています。経営の強みは50年来の取引関係にある肉業者との信頼関係で、安定供給と価格面での配慮を受けており、これが品質維持の支えとなっています。創業64年の歴史を持つ同店は、創業時からの常連客に支えられ、「いつ来ても変わらずおいし

同友会との関係

「い」との評価を得ながら、高品質な商品提供を経営理念として運営を続けています。

森川氏の同友会入会は約10年前、東京の知人からの紹介がきっかけでした。沼津支部の例会にオブザーバーとして複数回参加し、世代を超えた多様な意見交換ができる雰囲気の良いさに魅力を感じたと森川氏は言います。当時、経営理念や企業理念への関心が高まっていた時期でもあり、そうした分野に実績を持つ会員が多いことも入会の決め手となりました。入会3年目には全県経営フォーラム副実行委員長を務め、その後も5、6年間委員会役員として活動。役員業務を通じて組織運営のコミュニケーション手法を学び、経営に活かしています。「異業種の多様な人材が参加することに価値がある」と語る森川氏は、組織のすそ野拡大に期待を寄せています。「多忙で例会参加が困難な時期があっても、久しぶりに参加すれば



創業から変わらないおいしさのとんかつ

とんかつこがね

〒410-0801 沼津市大手町5丁目11-8

TEL：055-962-6120

URL：https://www.facebook.com/tonkatsukogane/?locale=ja_JP

創立 2010年

社員数 4名

入会年月 2016年7月

事業内容 飲食店(とんかつ店の経営)

取材・記事：太田 喜貴氏

取材：田村 雅彦氏

取材：梅田 祐希氏

取材：金子 昌宏氏

取材：(株)TAMURA 沼津支部

取材：(株)リレイズ 沼津支部

取材：(株)ベストスタッフ 沼津支部



とんかつに舌鼓を打つ取材陣

温かく迎えてくれる会員の雰囲気
が同友会の良さ。この良好な関係
性を維持しながら規模拡大を図っ
ていけるのでは」と、同友会の展
望を前向きに語りました。

初となる私立大学との相互協力協定

静岡英和学院大学及び短期大学部との相互協力協定を締結

7月28日(月) 静岡英和学院大学 参加者：13名

静岡同友会は、私立大学の静岡英和学院大学及び同短期大学部との相互協力協定を締結しました。7月28日に大学内で執り行われた調印式には、先方から永山学長はじめ、副学長、学部長、企画部長が同席、同友会からは簗代表理事はじめ7名が出席しました。

本協定の目的は、「地域社会との連携を図り、地域の実情やニーズを把握のうえ、地域の活性化・人材育成等のために協力し、地域社会の様々な課題解決に向けた取組み

地域課題解決にむけた相互連携を深める



を推進することを目的とする」としています。

永山学長からは、地域に根ざす同友会と静岡英和学院大学・短期大学部との一層の連携にむけて、就職に限らず、インターンシップ、企業家の実践を学生が知る・感じる授業協力や地域が抱える課題解決にむけて教授陣との共同研究、また留学生のアルバイト求人等、幅広い連携に期待したいとのことでした。

静岡英和学院は1887(明治22)年に県下最古の女学校として開校され、2007年に共学の静岡英和学院大学を開設、現在大学・短期大学部には809名の学生が在籍しています。心理、経済経営、観光地域デザイン、英語文化、日本文化、保育・幼児教育、社会福祉、ソーシャルサービス・イノベーション、医療事務、ファッション・ビューティ、観光、ブライダル、栄養士など多岐に亘るコースを設定し、県下の企業、官公庁、団体等に卒業生を輩出しています。

静岡同友会と大学との協力協定は、2008年9月に締結した静岡大学以来2校目となり、私立大学・短期大学では初めての締結となります。

中小企業と県経済の発展をめざして

静岡県経済産業部との意見交換会

8月19日(火) 同友会事務局 参加者：17名

県経済産業部との意見交換会が開催され、静岡県からは齊藤卓己経済産業部長をはじめ、就業支援局長、商工業局長ら7名、同友会からは県理事、県政策委員、山本義彦顧問ら10名が参加しました。

はじめに井上代表理事から「昨今、トランプ関税による大企業の収益低下が取り上げられています。今後は中小企業にも影響が波及し、厳しい状況に立たされることも予想され、先行きは不透明です。同時に多

様化する社会への対応が中小企業にも求められています。実効性のある意見交換にしていきたいと思います」とのあいさつがあり、齊藤経済産業部長からは「関税措置に関しては、6月補正予算にて緩和措置のための補助金制度など対策を取り対応を進めています。県経済の更なる成長にむけ互いの理解がより深まる機会としていけたらと思います」とのあいさつがありました。

その後、同友会が提出した県への政策要望に関する回答をいただき、意見交換を実施。各企業の近況をはじめ、価格転嫁や中小企業の補助金活用、人材採用の取り組みなど幅広く地域課題の解決にむけて互いの意見を交換しあう時間となりました。最後に簗代表理事より「価格交渉や人材難、採用に関するミスマッチなど企業が抱えている課題、地域が抱えている課題がリンクしていると感じました。静岡同友会においても静岡英和学院大学と協定を締結するなど教育機関との連携も進んでいます。学生のうちから中小企業や静岡で働くことの魅力を伝え、雇用を生み出すことが我々の役割と感じています。本意見交換をはじめ、より一層県経済の発展、中小企業の成長にむけて協力いただけると幸いです」とのあいさつがあり閉会となりました。

地域経済の発展と中小企業の成長にむけ意見交換



よい経営環境をつくろう学習会

同友会の政策活動の歴史から 「よい経営環境づくり」の未来を展望する

7月29日(火)

静岡市産学交流センター ペガサート 参加者：32名

今回の学習会は、静岡同友会が政策活動、対外活動などを進める上で、今一度、中小企業が置かれている立ち位置、同友会がめざす地域づくりに触れ、企業づくり・同友会づくりの強化に繋げる機会とするために開催。講師として三宅一男氏（中小企業家同友会全国協議会・副会長）に登壇いただきました。三宅氏はバブル崩壊後に金融機関による手形の選別・貸し渋りに直面。不渡り・倒産の恐怖から眠れない日々を経験。そこから経営環境づくりへ関わりがスタートしました。



講師：三宅一男氏

三宅氏は山口義行氏（当時立教大学経済学部教授）と共に同友会が推進した金融アセスメント法制定運動、その経験をもとに進んだ個人保証廃止の直訴などの政策提言、これらの教訓からはじまった中小企業憲章・中小企業振興基本条例制定運動の歴史、2012年の民法改正への東京同友会の関わりと今日の金融行政の監督指針（経営者保証の制限）に繋がる同友会の政策活動の歴史を語りました。「自社だけが良くとも大火は避けられず、自社は守れない。自社を守るために他社を守る必要がある」と中小企業家が経営環境づくりに関わる意義を参加者に伝えました。

当日参加したお二人からの感想をご紹介します。

〈参加者感想〉

息遣いを感じる経営からの政策活動

経営環境から憲章・条例運動まで三宅氏の長年の経験を踏まえたお話を拝聴しました。

経営環境を火の用心の精神に例え、自社だけでは失火は免れず、地域全体で取り組む必要があるという表現は分かりやすかったです。また現在、個人保証がなくても融資を受けられるのは、同友会が長年政府に提言し続けてきた成果であることを知り、

政策活動の重要性を改めて認識しました。消費税や最低賃金、社会保障など制度的な課題の重要性についても学びました。政策委員会としては、まず景況調査の回答数を増やし、会員の経営課題を政策提言に反映させるとともに、各市の条例推進会議の情報共有を図り、県内全体での政策活動の連携を強化して参りたいと思います。三宅氏の「働く人、買ってもらう人、共に生きる地域の人々の息遣いを感じながら商いを続ける質の違いこそが中小企業という存在の本質である」というお言葉を胸に継続的な政策活動を推進して参ります。

山田尚子氏

（株）サンロフト・志太支部／県政策委員長

良い経営環境は良い地域振興に宿る 災害に備える中小企業の堤く

金融機関の貸し渋り・貸し剥がしの過去を乗り越えた軌跡を語る学習会の着地は中小企業を取り巻く世相に言及し中小企業家が目指す道を示すものでした。憲章運動、同友会の在り方、少子化と人口減についての全国的な課題を明確にした上でバズセッションを行えたことが今後の糧となると確信します。セッションにおいて①地域課題の見つけ方②同友会の在り方と少子化・人

口減について③金融機関からみた中小企業の強みと弱み④地域が抱える課題の拾い上げ方から転じて災害への備えについて話が展開しました。良い経営環境を作る手法として①他団体とのコラボ②同友会員の増強③経営指針制定と見直し④BCPの見直しを挙げられました。セッションの終点となったのが来たる震災への備えについてです。講演の最中の「地域の経営環境とは火の用心の精神」との言葉が非常に腑に落ちます。自社だけが備えていれば良いのではなく地域企業として諸課題にどのように取り組み、どのように備えるかが肝要であり、「良い経営環境を作る」とは良い地域振興にあるのだと学びました。火の用心の拍子木を打つ、中小企業の結束によるより良い経営環境の創造がすなわち静岡地域企業の堤となるでしょう。

大橋知晃氏（Arch Engi・中遠支部）



「よい経営環境づくり」について学びあう

9月・10月

DOYU CALENDAR

9月16日(火)～10月15日(水)

9月 17日(水)	第8回全県経営フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM)
18日(木)	榛南例会 (18:45 牧之原市商工会) 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)
19日(金)	志太例会 (18:30 BiViキャン) 第22期経営指針を創る会⑦ (19:00 ペガサート)
22日(月)	にじいろ共生委員会 (18:30 同友会事務局&ZOOM) 三島例会 (19:00 三島市商工会議所)
24日(水)	第22期経営指針を創る会 数値勉強会 (19:00 ペガサート)
25日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 第1回中同協定時総会in静岡実行委員会 (17:30 同友会事務局&ZOOM)
29日(月)	県共育委員会 (18:30 ZOOM)
30日(火)	県政策委員会 (15:00 遠藤科学㈱) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM) 県例会企画委員会 (19:00 ZOOM)

10月 2日(木)	公正取引委員会との意見交換会 (13:30 同友会事務局) 正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
3日(金)	第22期経営指針を創る会⑧ (19:00 ペガサート)
7日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
9日(木) ～10日(金)	第23回障害者問題全国交流会in青森 (13:00 ホテル青森・モルトン迎賓館)
9日(木)	浜松交流例会 (19:00 未定)
10日(金)	東部4支部合同会議 (17:00 プラサヴェルデ) 富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉会館)
14日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)



《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》

静岡県中小企業家同友会会費 口座振替のお知らせ

口座振替日／2025年10月6日(月)

振替会費／令和7年度下期会費(令和7年10月～令和8年3月)

振替額／県会費42,000円 ※休会者：県会費21,000円(支部会費なし)

支部会費(伊東・三島・沼津・富士・富士宮・志太・榛南支部所属の会員 6,000円)

上記の通り、会費をご指定の口座から振替させていただきますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。

納入代行会社は「三井住友カード株式会社」(IHSMB Cファイナンスサービス)、通帳印字は「SMBC(ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。

*会費は消費税法基本通達5-5-3に該当する科目のため、不課税となります。

課税仕入れにしないようお願いいたします。

*当会はインボイス発行事業者ではありません。

2025組織強化・会員増強全国交流会
学び合い活動と地域に広げる
運動を展開しよう!

8月6日(水) ZOOM
参加者：434名(静岡同友会から8名)

本交流会は①仲間づくりの輪を広げ、増える・強い組織づくりを進める、②会員増強の取り組みの中で成果と課題を確認し、全国的な教訓とする、③組織強化、会員増強、フォローの仕組みづくりを学び、仲間を増やす組織力をつける、の3点を目的に開催されています。

はじめに、中山英敬中同協幹事長による問題提起で、各県活動の実態調査の数字を元に、企業づくり・地域づくり・同友会づくりを一体とした取り組みで5万社を目指す意気込みが共有されました。事例報告は3県(愛媛・岩手・長野)から報告がありました。グループ討論では組織的な会員増強・仲間づくりの課題や取り組み、学び合いを地域に広げる運動としてどのように展開していくのか議論を深めました。

本交流会はコロナ禍以降、年に一度オンラインで開催しています。このような機会を活用し、自社と地域と同友会の発展に繋がっていきましょう。

★静岡同友会では来年の第58回中同協定時総会in静岡にむけて1200名会員の達成を目標に掲げています(8月末現在1086名)。お知り合いの経営者・後継者をお誘いいただき会員として共に学んでいきましょう!